

# がんセンターNEWS

Aichi Cancer Center News

第42号

平成24年10月発行

発行

愛知県がんセンター

Tel. 052-762-6111(代)

## 部長就任のあいさつ

2012年9月16日より、がん研有明病院より愛知県がんセンター中央病院呼吸器外科部長に着任致しました。当院は昭和39年の設立以来、県内のみならず県外の患者さんからも多くの支持と信頼を集めている全国でも屈指のがんセンターです。そのような由緒あるがんセンターに赴任できることは非常に喜びであるとともに、その職責の重さに身の引き締まる思いです。

呼吸器外科では主に肺がんや縦隔腫瘍を対象疾患としています。診療に於いては、呼吸器内科、放射線診断・治療科、病理部、緩和チーム、そして併設の研究所などと密に連携し、“がん専門病院ならではの”先進的で高質ながん医療（手術を主体とした集学的治療）の提供に努める所存です。また、患者さんの診療に携わる全ての方は職種に関係なく、診療チームの大切な仲間であると認識しています。そのようなチームとしての和を大切に、個々のプロ意識を尊重し、患者さんに安心・安全な医療を提供してまいりたいと思います。皆様どうぞ宜しくお願い致します。



呼吸器外科部長

坂尾 幸則

## 新任医師の紹介



緩和ケア部

下山 理史

名古屋医療センターより着任致しました。緩和ケア

は、患者さんとご家族のからだの痛みやこころの痛みを含めた様々な痛み・苦しみをその時期を問わず和らげることによって、よりよく生きるための医療です。皆さんが日常生活を送りやすくなるお手伝いができるよう努めて参ります。



薬物療法部

安藤 正志

国立がん研究センター中央病院より赴任して参りました。固形がん（乳

がん、軟部肉腫、原発不明がんなど）の薬物療法を専門としております。がんの薬物療法を受ける際には、患者さんの受ける利益（治療効果）と不利益（副作用など）を説明した上で、個々の患者さんに最善と考えられる治療を提供できるように努力して参ります。さらに、当院でも臨床試験を通じて、新しい治療開発に積極的に取り組んで行きたいと思っております。



婦人科部

笹本 香織

京都第一赤十字病院より赴任し、平成24年4月

から7月までレジデントとして勤務しておりました。婦人科腫瘍に対する治療を専門としています。患者さんにはわかりやすい言葉で診療内容を説明できるように心がけています。よろしくお願いたします。

# 「腫瘍組織に吸収されるペプチド～がんの新しい医療技術」

研究所 腫瘍病理学部 近藤英作

愛知県がんセンター研究所・腫瘍病理学部のがんの医療技術に関する研究開発の成果が、世界の先端研究を掲載する総合科学誌の一つ「ネイチャー・コミュニケーションズ」に掲載され、新聞やテレビで報道されました。

この研究の意義は、当部が開発したヒトのさまざまながんを選択的に吸収される性質を持つ短い配列のアミノ酸（ペプチド）を用いて、からだに大きな負担をかけることなく、がんの患者さんを対象としたさまざまな医療技術を作っていくための基礎となる道具を開発したことにあります。わたしたちは、これらの特殊な働きを持つペプチドを、遠くの目標を探知して捉えるシステムになぞらえて「腫瘍ホーミングペプチド」と命名しています。

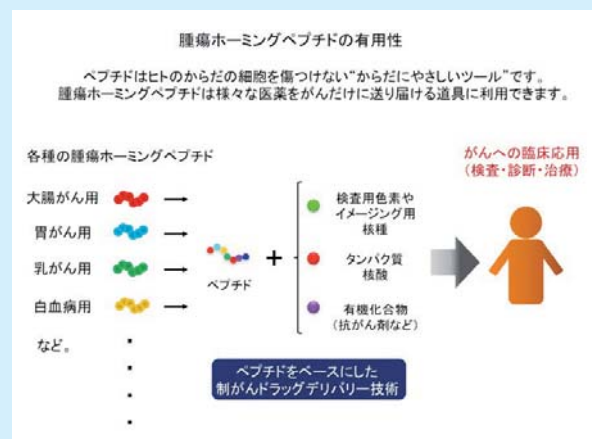
この「腫瘍ホーミングペプチド」は、患者さんのからだに発生したがんの種類に合った吸収性を示すペプチドで、このような物質は現在まで世界で報告はありませんでした。具体的な使い道として、画像診断用の薬品や内視鏡用の色素で標識して、からだにやさしい微小がんの探知技術（イメージング診断技術）に利用したり、また、これらのペプチドをキャリアー（運び屋）として利用してがんの増殖や転移を抑えるさまざまな薬を目的組織（がん組織）に効率よく十分に届けることのできる新たな技術（ドラッグデリバリー技術といいます）を作るための道具になると考えています。わたしたちはこのようなペプチドをベースとした“からだにやさしい”がん患者さんのための先進的な検査法や治療法の開発をこれからも力を入れて推し進めていきます。

右図:わたしたちは現在までに大腸がんによく吸収されるペプチド、白血病によく吸収されるペプチド、胃がんによく吸収されるペプチドなど数種類のがんに対する特殊ペプチドを開発しています。



腫瘍病理学部長

近藤 英作



## スタッフの紹介

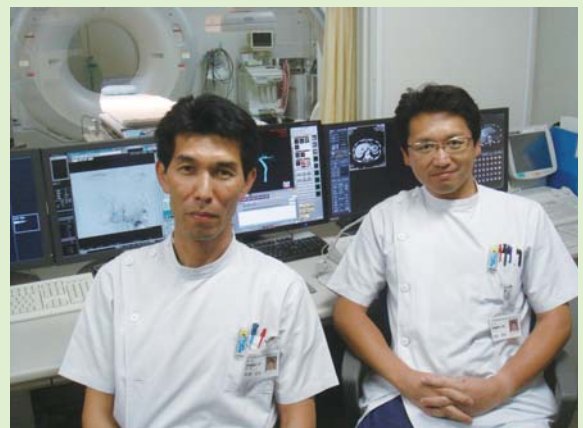
### 中央病院～放射線診断・IVR部～

#### 『血管撮影・IVR専門診療放射線認定技師』

放射線診断・IVR部は、画像診断やIVRを専門とした医師が従事しており、最先端の機器を用いて迅速で精度の高い画像診断や低侵襲で効果の高い治療を行っております。

IVRでは医師、看護師、放射線技師が連携し、各々が高い専門性を発揮して、患者さんのためのチーム医療を実践する事が不可欠です。我々は専門技師として、装置の安全管理のもと、最小限の被ばくで、最善の画像提供に努めています。

※IVRとは、interventional radiologyの略で、X線透視、CT、超音波などの画像誘導下で行う様々な手技、治療のことです。



左から：米澤祐司技師・服部寿史技師

# 環境と遺伝的な体質の両方から、 がんのリスクを予測する新たな方法の開発

研究所  
～疫学・予防部～



疫学・予防部長

田中 英夫

がんのできる原因は、ライフスタイルや環境から受ける影響と、生まれながらに備わっている遺伝的な体質から来るものの、大きく2つに分かれます。この2つの両方が組み合わさって、その結果がんが生まれるのです。

同部の伊藤室長らは、日本人女性に増え続けている乳がんについて、愛知県がんセンターの病院疫学研究に参加して下さった初診患者さん約2,000人を対象に研究し、乳がん発症に「関係のある」14の遺伝子の箇所を見出しました。次に、その遺伝子の箇所を何個持っているかで対象者を図1に示しますように5つのグループに分類したところ、「関係のある」遺伝子の箇所を多く持っていたグループの人ほど、乳がん発症のリスクが高くなることを発見しました。さらに、この遺伝子の情報に、これまで明らかになっていた個人の肥満度などのライフスタイル要因を加えると、乳がんリスクを予測する精度が大きく向上しました(図2)。

当部は、このようなオーダーメイドがん予防法の開発につながる研究をこれからも進めて行きます。

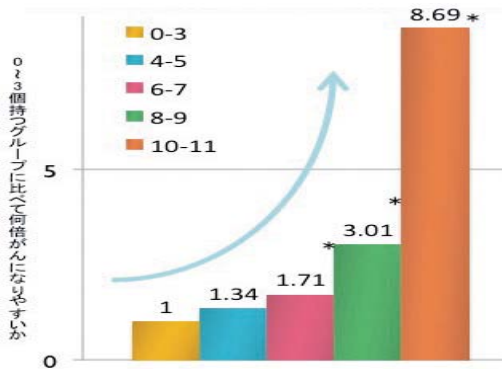


図1.乳がんの発症に「関係のある」遺伝子の箇所を何個持つかで、5グループに分類し、リスクを調べた。

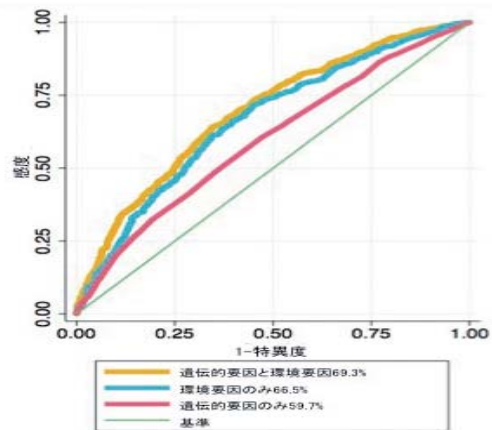


図2.曲線が左上に上がるほど、将来の乳がん発症の有無を予測できる確率が高いことを意味する。解析結果から、環境要因に今回の遺伝情報を加えると、予測精度が上がった。

## 研究員の紹介

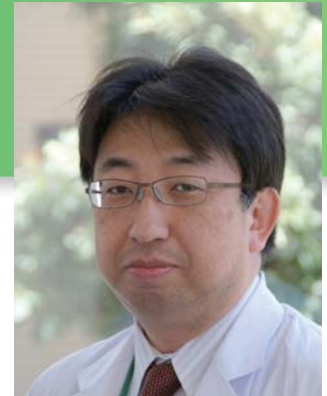
研究所～腫瘍免疫学部～

腫瘍免疫学部では、がんに対する免疫応答の解析を行うとともに、将来の新しい治療を構築することを目指して研究に励んでいます。研究員は葛島部長以下、植村主任研究員、岡村研究員の他、リサーチレジデントの張、山田、名大連携大学院生の牧、客員研究員の赤塚、藤田がそれぞれの研究テーマに取り組んでいます。また、技師の平松、三浦の他、実験補助員の白石、巽、坪井、のスタッフに支えられています。



## 若いドクターのエネルギー満ち溢れる 我が薬物療法部 中央病院～薬物療法部～

各癌種において分子標的薬が多く臨床導入されるようになり、手術、放射線などの治療とともにさらに進歩を速めております。より先進的な診療を支える上で人的資源の育成が重要となります。薬物療法部には今年レジデント4人、シニアレジデント1人、スタッフ2人が着任しました。この中で未来を支える若人であるレジデント諸君の思いを伝えます。



薬物療法部長

室 圭

小森「日常診療からの疑問に対するヒントを求めて、病棟業務の傍ら、過去のカルテをめぐりかえす日々です。目の前の患者さんだけでなく将来のがん診療へ還元できるよう頑張ります。」

成田「日々の診療で患者さんとお話することから始まり、化学療法の標準治療を中心に新たな治療法の発案・開発、緩和治療など非常に充実したレジデント生活を送っています。」

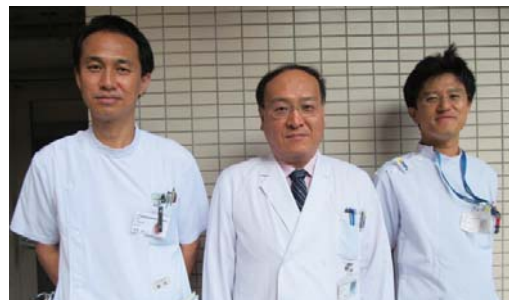


新田「これまでの総合病院と異なり、がん患者さんを専門に診るがんセンターにたくさん戸惑いながら、毎日の診療・臨床研究に励んでいます。少しでも早く、よりよいがん診療を臨床の現場に還元できるように頑張ります。」

山口「日々忙しいながらも充実した毎日を送っています。当院にて臨床試験などにも積極的に計画および参加することで、医療の基本に忠実でありながらも、より先進的な医療も提供できるよう精進していきたいと思っております。」

## ◆診療医の紹介 中央病院～泌尿器科部～

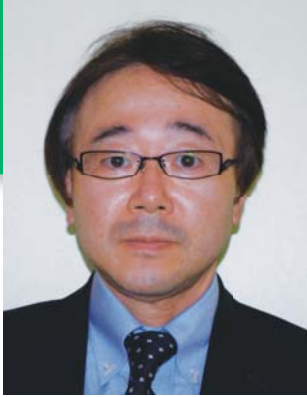
泌尿器科部はスタッフ3名で、前立腺がんを中心に腎がん、腎盂尿管がん、膀胱がん、精巣がんなどの診療を行っています。特に前立腺がんの手術は腹腔鏡下小切開前立腺全摘術で患者さんの侵襲を少なくしています。前立腺がんの放射線治療は、小線源治療(密封小線源永久挿入療法)と強度変調放射線治療(IMRT)を行っています。放射線治療は手術に劣らない良好な成績を示しています。腎がんの手術も腹腔鏡下根絶的腎摘術に積極的に取り組んでいます。



左から：曾我倫久人医長、林宣男部長、小倉友二医長

## 肺がん治療薬の開発が進んでいます

中央病院～呼吸器内科部～



呼吸器内科部長  
樋田 豊明

肺がん患者さんに最良の薬物治療が提供できますよう肺がんのタイプや進行度、身体の状態や年齢などの臨床所見に加え、肺がんの多くを占める非小細胞肺がんではがんの遺伝子異常についても精査し、それらの結果を総合的に判断して最適な個別化治療を行っています。

肺がん研究の進歩により、肺がんの発生や増殖に重要なキープポイントをターゲットとする薬の開発も進み、上皮成長因子受容体(EGFR)阻害薬やALK阻害薬以外にも肺がんの沢山のターゲットに対する薬の開発が行われています(図1)。

また近年、免疫療法の開発も進んでいます。がんは免疫細胞から攻撃を受けないように免疫細胞の活動を抑制し免疫反応から逃れるメカニズムを持っています。この免疫反応からがんが逃げられないようにする薬もまだ治験段階ですが開発されてきており今後の発展が期待されます(図2)。

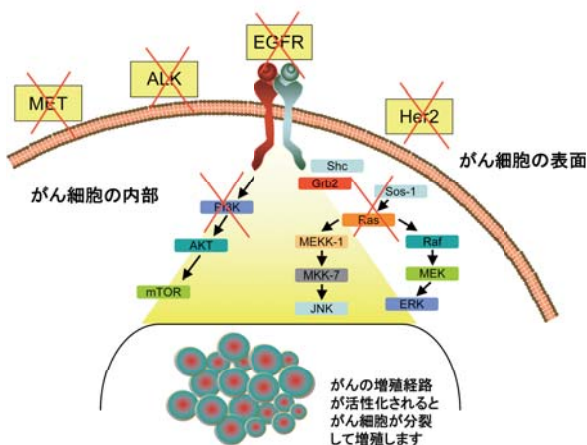


図1. 肺がん細胞の増殖とその阻害  
がん細胞の表面から内部へとシグナルが伝わるとがん細胞は増殖します。がん細胞の表面や内部のシグナル(標的)をブロックし、がん細胞の増殖を阻害する薬が沢山開発されてきています。

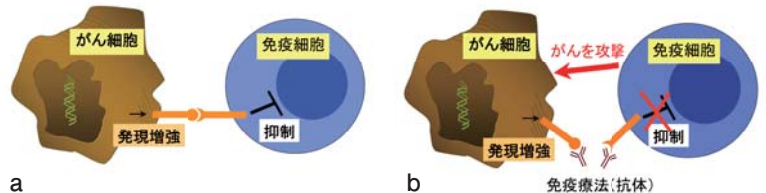


図2. がんの免疫からの逃避とがんに対する免疫療法  
a: がん細胞が作る物質が免疫細胞に結合すると免疫細胞は抑制されがんを攻撃できない。  
b: がん細胞が作る物質が免疫細胞に結合できなくなると免疫細胞はがんを攻撃できる。

## ◆診療医の紹介 中央病院～整形外科部～

整形外科部では四肢などに発生する骨軟部腫瘍(骨、関節、筋肉、脂肪などから発生する腫瘍)の治療を中心にを行っています。現在2名のスタッフと1名のレジデントで臨床および研究を行っています。平成23年度の手術件数は年間146件ですが、手術のみならず新しい治療薬などの臨床試験も積極的に行っています。骨軟部腫瘍は稀な疾患ですが、再発をすると予後が悪くなるため初期の治療が非常に重要となります。四肢などに発生した腫瘍の治療は是非専門病院でお願いします。



左から：奥田洋史医師、杉浦英志部長、山田健志医長

# ボランティアさん集GO!



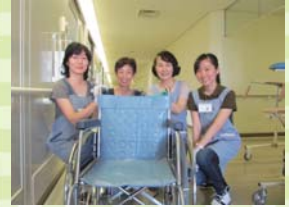
**庭園** 患者さんから花壇を見て散歩するのが楽しみと言われました。とても嬉しかったです。



**外来案内** 笑顔で接してみんなの不安を少しでも和らげられたかな？



**ギャラリー** ちょっとした作品展。ボランティアをするのが楽しみになっています。



**車椅子整備** きれいになったね。びかびかだと気持ちいいよね。



**かのご文庫** 患者さんからこの本すごく面白かったと情報ゲット。今度読んでみよう。



**相談会** ピアサポーター（がん体験者）による相談会をアトリウムで第1・3月曜日と第2・4水曜日の午前中に開催しています。

中央病院では様々な場所で、ボランティアさんが活躍しています。ボランティアのお申し込み・問い合わせは運用部管理課総務グループまで

## 外来診療案内

受付時間	午前8時30分～11時30分（自動再来受付機による受付は午前8時からできます。）
休診日	土・日・祝日、年末年始
診療科	消化器内科、呼吸器内科、循環器科、血液・細胞療法科、薬物療法科、頭頸部外科、形成外科、呼吸器外科、乳腺科、消化器外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、婦人科、皮膚科、眼科、放射線診断・IVR科、放射線治療科、緩和ケア科（精神腫瘍科・リンパ浮腫外来・ペインクリニック）、専門外来（禁煙外来）
外来診療担当一覧	毎月1回、月初めに更新しています。詳しくはホームページをご覧ください。
休診情報	お電話またはホームページでご確認ください。
ホームページ	<a href="http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/">http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/</a>

※再診予約制:診察券をお持ちの方は、診察予約をしてください。052-764-2911（直通）午前9時～午後5時（土・日・祝・年末年始を除く）  
 ※セカンドオピニオン外来は、全科で対応しています。（完全予約制・自由診療）※精神腫瘍科及び禁煙外来は、予約のみの対応です。

## 交通のご案内

### ★公共交通機関のご案内

地下鉄利用 名城線「自由ヶ丘」駅2番出口から徒歩7分  
 市バス利用 基幹2系統・星丘11系統「千種台中学校」下車徒歩4分

### ★車でのアクセスのご案内

- ◎一般道路  
 本山交差点から北へ約10分、平和公園の北西
- ◎高速道路  
 東名高速道路「名古屋IC」から西へ約15分  
 名古屋高速「四谷出口」から北へ約10分

※詳しくはホームページをご参照ください



愛知県がんセンター Tel.(052)762-6111 Fax.(052)764-2963

〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1番1号 ホームページ <http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/>